

1 沿革

年	月	事 項	年	月	事 項	
大正	8 (1919)	12 開港60年・自治制施行30年記念事業として図書館の建設を計画。	昭和	57 (1982)	9 戸塚図書館で台風により地下書庫の冠水被害。	
	10 (1921)	6 横浜公園内の建設事務所内仮閲覧所で図書の閲覧開始(横浜市図書館の開業)。		60 (1985)	1 瀬谷図書館開館。市立図書館9館となる。	
	12 (1923)	9 関東大震災により建物と蔵書を焼失。		61 (1986)	5 旭図書館開館。市立図書館10館となる。	
	13 (1924)	12 中村町のバラックに閲覧所を設置し、閲覧開始。		62 (1987)	1 港南区図書館開館。市立図書館11館となる。	
		3 横浜公園内に仮本館が竣工し、落成記念に震災展覧会を開催。			4 地域図書館の火～木曜日の開館時間を午後7時までに延長(金曜日は以前から7時)。	
		4 閲覧業務を実施。			5 『横浜市中央図書館基本構想委員会報告書』が提出される。	
		9 館外貸出を実施。		10	10 神奈川図書館開館。市立図書館12館となる。	
昭和	2 (1927)	7 旧老松小学校跡に横浜市図書館竣工。		11	11 各図書館報を統合して横浜市立図書館報『横浜』創刊。「文化の日」開館開始。	
	5 (1930)	1 『横浜市図書館報』創刊。		63 (1988)	1 山内図書館改修工事竣工、団体貸出開始。	
	9 (1934)	11 巡回文庫開設(隣保館に図書の一括貸出)。	平成	元 (1989)	2 泉図書館開館。市立図書館13館となる。	
	12 (1937)	7 横浜市図書館を後援し各種文化事業を行う「横浜読書協会」を設立。			3 栄図書館開館。市立図書館14館となる。	
	19 (1944)	10 一般閲覧室を市会議場として使用。			『横浜市中央図書館資料収集検討委員会報告書』が提出される。	
	20 (1945)	3 横浜連隊区司令部の接收により戸部小学校に移転。図書館の建物は、終戦後米軍に続いて市復興局が使用。			5 中図書館開館。市立図書館15館となる。	
		9 戸部小学校から教育会館に移転。			「こどもの日」開館開始。	
	22 (1947)	8 移転先より野毛に復帰。			11 「よこはま21世紀プラン」第3次実施計画策定により、中央図書館・分館を含めた図書サービスネットワーク確立の方針を打ち出す。	
		9 開架式で閲覧業務を再開。		2 (1990)	1 中央図書館建設のため横浜市図書館休館。	
	25 (1950)	4 館外個人貸出開始。			3 横浜市図書館仮設館開館。	
		図書館法公布で閲覧無料となる。			9 横浜市図書館を解体、中央図書館着工。	
	29 (1954)	10 団体貸出事業開始。		3 (1991)	4 神奈川県図書館情報ネットワークシステム(KL-NET)に加入。	
	32 (1957)	3 『郷土よこはま』創刊。		4 (1992)	12 南図書館開館。市立図書館16館となる。	
	34 (1959)	5 「サンディエゴ＝横浜友情文庫」を特設。		5 (1993)	10 横浜市図書館仮設館の個人貸出・閲覧業務を停止。	
		7 貸出文庫用自動車購入。翌年1月から本格的に配本開始。		6 (1994)	1 各図書館で「横浜市立図書館情報システム」による窓口業務開始。	
	35 (1960)	5 日吉閲覧所開設(44年9月団体貸出に移行)。			2 中央図書館一部開館。	
	38 (1963)	1 新館増改築工事竣工。			4 中央図書館全面開館。図書館情報システム全面稼動。	
	44 (1969)	8 団体貸出用広報『ひろば』創刊。		12	12 「ゆめはま2010プラン」基本計画策定。	
	45 (1970)	4 横浜市図書館報『こだま』創刊。			1区1館達成後、図書館8館の新設と地区センター等とのネットワーク整備を計画。	
		8 移動図書館「はまかぜ1号・2号」による巡回貸出開始。		7 (1995)	4 都筑図書館開館。市立図書館17館となる。	
	47 (1972)	10 『横浜市図書館行政の施策と展望(意見具申)』(横浜市社会教育委員会議)が出される。			5 緑図書館開館。市立図書館18館となる。	
	48 (1973)	11 「横浜市総合計画1985」策定。方面別図書館建設の方針が出される。			1区1館の達成。	
	49 (1974)	10 磯子図書館開館。市立図書館2館となる。		8 (1996)	1 中央図書館で来館困難な障害者に対する配送貸出サービス開始。	
	52 (1977)	4 山内図書館開館。市立図書館3館となる。		10 (1998)	3 図書館ホームページを開設、インターネットによる蔵書検索サービス開始。	
	53 (1978)	11 戸塚図書館開館。市立図書館4館となる。			5 「庁内情報拠点化事業」開始。	
		初めて貸出にコンピュータ方式を採用。		11 (1999)	11 磯子図書館、磯子区総合庁舎に移転開館。	
	54 (1979)	5 戸塚図書館で視覚障害者サービス開始。			「予約図書情報ダイヤル」サービス開始。	
	55 (1980)	1 鶴見図書館開館。市立図書館5館となる。		12 (2000)	4 市立図書館全館で祝日等年間30日の開館日拡大。中央図書館の火～金曜日の開館時間を午後8時30分までに延長。	
		5 金沢図書館開館。市立図書館6館となる。			13 (2001)	12 市立図書館全館で月曜日開館開始。
		6 磯子図書館、山内図書館の貸出方法をコンピュータ方式に転換。		14 (2002)	12 「横浜市中期政策プラン」策定。地区センターとの連携、図書館情報システムの改善を計画。	
		7 『こだま』『ひろば』を統合し、図書館報『よこはま』創刊。		15 (2003)	1 図書館情報システムを更新。	
		8 港北図書館開館。市立図書館7館となる。		16 (2004)	5 Eメールレファレンスサービス開始。	
56 (1981)	4	図書館間の連絡車が稼動。				
	12	「よこはま21世紀プラン」策定。1区1館建設及び中央図書館建設方針を確立。				
57 (1982)	5	保土ヶ谷図書館開館。市立図書館8館となる。				

年	月	事 項	年	月	事 項
平成 17 (2005)	1	登録更新手続を開始。 ホームページに「Yokohama's Memory 《都市横浜の記憶》」を公開。 地区センター等蔵書情報を公開。	平成 26 (2014)	3	港北図書館耐震補強等工事完了。 「横浜市民読書活動推進計画」策定。
	10	インターネットでの予約・貸出延長サービス開始。		4	「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」施行。 各区に読書活動推進担当課長を設置。 (地域図書館長が兼務。西区はサービス課長、 青葉区は企画運営課長が兼務。)
	12	「地区センター等ネットワーク試行調査事業」 開始。(二俣川駅・東戸塚駅行政サービスコー ナー及び青葉区内地区センター1施設での 貸出・返却、東急田園都市線3駅への返却 ポスト設置)		10	ボランティア向けメールマガジン配信開始。
18 (2006)	2	中央図書館でインターネット閲覧サービス開始。	27 (2015)	2	「横浜市立図書館蔵書5か年計画」及び「横浜 市立図書館児童サービス5か年計画」を策定。
	10	「横浜市立図書館のあり方懇談会」開設。		3	「横浜市立図書館アクションプラン(第2期)」 を策定。
	12	「横浜市中期計画(横浜リバイバルプランⅡ)」 策定。「市立図書館のあり方検討」を計画。		11	横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム 「横浜読書百貨展」(第1回)開催。 「第2期 横浜市教育振興基本計画」策定。
19 (2007)	1	地域図書館5館(旭・金沢・緑・都筑・栄)で インターネット閲覧サービス開始。		11	横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム 「横浜読書百貨展」(第2回)開催。
	2	全館に「初めて出会う絵本コーナー」開設。	28 (2016)	1	港南台地区センターでの図書取次サービス開始。
	7	戸塚図書館再整備工事完了。		3	「司書人材育成計画」を見直し、「司書職 人材育成計画」を策定。
	8	『横浜市立図書館のあり方懇談会報告書』の 提出を受ける。		4	都筑図書館、平成28年度子どもの読書活動 優秀実践校等文部科学大臣表彰を受賞。
	10	全館で「ティーンズ・サービス」開始。 「地区センター等ネットワーク試行調査事業」 拡充。(青葉区内地区センター等5施設での 貸出・返却開始)		11	港北図書館、図書館総合展にて地方創生 レファレンス大賞審査会特別賞を受賞。 横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム 「横浜読書百貨展」(第3回)開催。
20 (2008)	1	横浜市立図書館情報紙『@Lib』創刊。		11	横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム 「横浜読書百貨展」(第3回)開催。
21 (2009)	3	保土ヶ谷図書館耐震補強等工事完了。 全地域図書館にインターネット閲覧サービス拡大。	29 (2017)	3	鎌倉市、川崎市、藤沢市、大和市と広域相互 利用サービスを開始。
	4	横浜開港150周年事業を開催。(～12月)		11	ツイッター(Twitter)による情報発信を開始。 横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム (第4回)開催。
	10	開港150周年にあたって小学生から募集した 『ヨコハマの子どもが選んだ150冊』を発表。		11	ツイッター(Twitter)による情報発信を開始。 横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム (第4回)開催。
22 (2010)	2	文部科学省による図書館プロジェクト「図書館 海援隊」(課題解決支援サービスに取り組む 図書館で構成)に参加。	30 (2018)	4	横須賀市と広域相互利用サービスを開始。 鶴見図書館、平成30年度子供の読書活動 優秀実践校等文部科学大臣表彰を受賞。 ふるさと納税(横浜サポーターズ寄附金) 受付開始。
	3	金沢図書館耐震補強等工事完了。		12	「第3期 横浜市教育振興基本計画」策定。
	4	山内図書館で指定管理者による運営を開始、 あわせて火～金曜日の開館時間を午後8時 30分まで延長。 中央図書館司書補助業務委託及び書誌作 成業務委託導入。 青葉区内コミュニティハウス1施設での貸出・ 返却開始。	31 (2019)	2	横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム @旭区開催。
	7	国民読書年事業として「ヨコハマ、本の虫宣言 ～2010年は国民読書年」を開催。		4	緑図書館、平成31年度子供の読書活動 優秀実践校等文部科学大臣表彰を受賞。
	9	「横浜市立図書館司書人材育成計画」を策定。	令和 元 (2019)	12	「第二次 横浜市民読書活動推進計画」策定。
	12	山内図書館で有料宅配サービスの試行開始。	2 (2020)	2	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム @戸塚区を中止。
23 (2011)	1	「横浜市立図書館アクションプラン」を策定。 「横浜市教育振興基本計画」策定。		3	図書館の一部サービスを停止。 「横浜市立図書館運営実行プラン」を策定。
	3	「蔵書再構成5か年計画」及び「横浜市立図 書館児童サービス5か年計画」を策定。		4	新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言 を受け、全館臨時休館。 戸塚図書館、令和2年度子供の読書活動 優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受賞。
	4	都筑図書館、戸塚図書館司書補助業務委託導入。 横浜市立図書館メールマガジンの配信を開始。		11	町田市と広域相互利用サービス開始。
	6	横浜市立図書館創立90周年。記念事業開催。	3 (2021)	1	横浜市立図書館のロゴマークを決定。
	7	節電のため9月まで、中央図書館を除く地域 図書館で、週1日輪番による休館を実施。		2	全館に本の除菌機を設置。
25 (2013)	1	図書館情報システムを更新。		3	電子書籍サービス、オンライン対面朗読 サービス開始。
	6	「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」公布。			
	10	市立学校への学校司書の配置開始。			

令和2年度のトピックス

新型コロナウイルス感染症への対応

(1) 図書館サービスの変更

感染症拡大防止への措置として、サービスの限定や臨時休館などを行いました。令和3年2月に、全館に本の除菌機を設置しました。

《経緯》

【3/2～】閲覧フロアへの立ち入りを禁止し、予約した図書の貸出、図書の返却、予約の受付などの一部サービスに限定。

【4/11～】国の緊急事態宣言を受け、全館臨時休館。

*予約サービス（予約本の貸出及び予約受付）は4月10日午後8時30分から6月2日午前9時30分まで休止。

*休館中に、10館で蔵書点検を実施。

【5/27～】国の緊急事態宣言解除を受け、予約図書の貸出を再開。開館時間を午前9時30分から午後5時までに短縮。

【6/2～】新たな予約の受付を再開。

【6/10～】閲覧フロアへの立ち入りを再開。ただし新聞・新刊雑誌の閲覧、座席の利用は休止。開館時間を通常通りに変更。

【6/24～】新聞・新刊雑誌の閲覧、席数を減らして座席の利用を再開。

【7/1～】感染拡大防止の対策*が整った館からイベント再開。

*換気、マスク着用などの他、原則として事前申込み制とする、参加者の間隔を十分にとる等

【7/21～】中央図書館の学習

席、音楽映像ライブラリー、飲食コーナーの利用を再開。

【R3 1/13～】国の緊急事態宣言を受け、中央・山内図書館の開館時間を午後8時に短縮（他の地域図書館の開館時間は変更なし）。

【3/23～】緊急事態宣言の終了

を受け、中央・山内図書館の開館時間を元の午後8時30分に変更。

(2) 非来館サービスの提供

インターネットでの動画等の公開

臨時休館中の4月にウェブサイトです新たに「おうちでのしめるコンテンツ」を開設し、紙芝居（地域で活動する演じ手による横浜の民話等）の動画や、ぬりえを公開しました。

また、オンラインによるライブラリースクール、修理ボランティア向け講座（とつか読書チャンネル）や小学生向け読み聞かせボランティア講座（読書ボランティアセミナー）の動画配信など、来館しなくても享受できる

コンテンツを作成しました。

イ 電子書籍サービスの開始（3/24～）

パソコンやスマートフォンで本を読むことができる電子書籍サービスを開始しました。市立図書館カード（在住・在勤・在学の方のカード）があれば、来館せずに手続きができます。開始時点のコンテンツ数は3,062点、3月24日から3月31日までのログイン数は5,868回でした。

ウ オンライン対面朗読サービスの開始（3/24～）

視覚障害により身体障害者手帳の交付を受けている利用者を対象に、Zoom等の遠隔コミュニケーションアプリを使用した対面朗読を開始しました。



オンライン対面朗読サービスの様子

隣接7市全てとの広域相互利用を実現

広域相互利用とは、協定を結んだ自治体の市民が図書館を相互に利用できるサービスです。横浜市立図書館は平成29年度に鎌倉市、川崎市、藤沢市、大和市と広域相互利用を開始し、その後、平成30年度に横須賀市、令和2年度に町田市、令和3年4月に逗子市と開始し、隣接7市全てと実施できました。また新たな連携として令和3年2月には、横浜市と隣接市の図書館員合同研修会を、対面とオンライン配信を併用して実施しました。

横浜市立図書館100周年に向けた取組

令和3（2021）年6月11日に市立図書館は開業100周年を迎えました。これに先立ち、市立図書館のロゴマークを決定しました。詳細は22ページをご覧ください。令和3年1月にはケーブルテレビ（『横浜ミストリー「幻の図書館」』）や季刊『横濱』で取り上げられ、多くの方に、100周年を知っていただくことができました。

令和3年度には記念式典・講演会をはじめ様々な取組を予定しています。



『横浜ミストリー「幻の図書館 横浜市立図書館100周年」』番組タイトル（YOUテレビ株式会社制作・令和3年1月放送）